

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

推進校実施報告書

- 1 学校名：静岡県静岡市立中藁科小学校
  
- 2 実施日時：2018（平成 30）年 11 月 30 日（金）10:00～15:30
  
- 3 対象：全校児童 約 70 名
  
- 4 派遣アスリート：山田 政晴 さん  
（ウェイトリフティング 56kg 級 アテネオリンピック出場、北京オリンピック 9 位）  
山本 俊樹 さん  
（ウェイトリフティング 85kg 級 世界選手権出場（2013 年、2017 年））  
八木 かなえ さん  
（ウェイトリフティング 53kg 級 ロンドンオリンピック出場  
リオデジャネイロオリンピック 6 位）  
松本 潮霞 さん  
（ウェイトリフティング 63kg 級 リオデジャネイロオリンピック出場）

5 授業内容：実技指導、質疑応答

2018（平成 30）年 11 月 30 日（金）に、静岡市立中藁科小学校にてオリパラ教育実践が行われました。今回の実践では、ウェイトリフティングのアスリートである山田政晴さん、山本俊樹さん、八木かなえさん、松本潮霞さんを講師としてお招きし、午前に実技体験、午後に質疑応答の時間が設けられました。また、児童たちはオリンピックとともに給食をとりました。

山田さんはオリンピックアテネ大会および北京大会に出場され、現在は、指導者として活躍されています。現役選手である 3 名の自己ベストは、山本さんが、スナッチ 158kg（日本記録）、ジャーク 206kg（日本記録）、トータル 361kg（日本記録）、八木さんは、スナッチ 86kg、ジャーク 112kg、トータル 197kg、そして、松本さんは、スナッチ 98kg（日本記録）、ジャーク 116kg、トータル 214kg（日本記録）とのことです。午前に行われた実技体験では、現役の選手である山本さん、八木さん、松本さんが実際のバーベルと重りを使って、実技を披露しました。選手たちが実際に用いる重量よりは軽い重さでの実演でしたが、児童はその様子を驚きと感動に満ちた目でみていました。また、子供用に作られた軽いバーベルと重りを用いた実技体験も行われました。

午後の質疑応答の時間には、つらいことや大変なことをどのように乗り越えたのか、怪我をしてしまったときはどうするか、これからの目標や夢はなにか、競技を続けていて嬉しかったことや悔しかったことはあるか等の質問がありました。選手達は、周囲の方の期待に応えようとするにつらさも乗り越えられるということや、頑張った自分にご褒美をあげようと思って練習等を組むことを意識していると話していました。怪我については、ウェイトリフティングにはつきものだけれども、日々の心がけで予防できることもあるということ、また、怪我をしたことで新しい見方ができるようになったり、視野が広がることもあると答えていました。これからの目標や夢については、2020 年の東京大会が照準になっていることや、ウェイトリフティングを盛り上げたいと話して

いました。さらに、競技を続けていて嬉しかったことには、やった分だけ記録や体に表れることや、多くの海外遠征で学びを得られること、オリンピック出場時に「1人でスポーツをしているわけではない」と感じたことを挙げていました。失敗したことはあるかという質問には、1kgの記録更新を狙って、成功するか失敗するかの二択しかないという競技の特性から、失敗することは多くあるが、その失敗も成長につながると話していました。食事面で気をつけていることについても、一人一人がその内容を紹介していました。

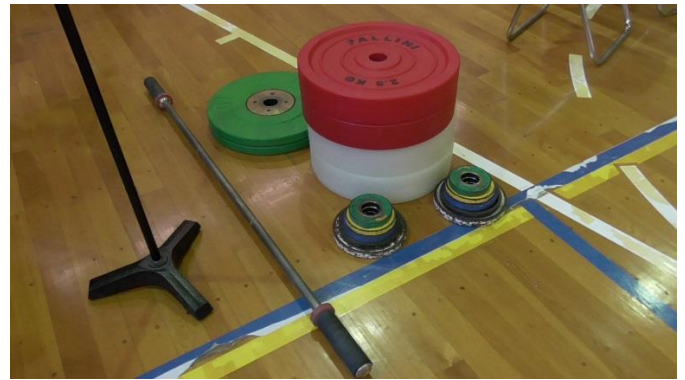
質疑応答の時間のあとは、児童が選手からサインをもらう時間が設けられました。握手をしてもらったり、会話を交わしたことで、児童は選手たちをより一層身近に感じ、嬉しそうな様子でした。その後、全員で校庭に移動し記念撮影を行いました。

プログラムの全てが終わり、選手が学校を出発する時には、全校の児童が玄関で選手を見送りました。選手たちは児童がつくる花道の間を通りながら、にこやかに児童の握手等に答えていました。午前から午後にかけて、多くの内容を盛り込んで行われた充実した実践となりました。

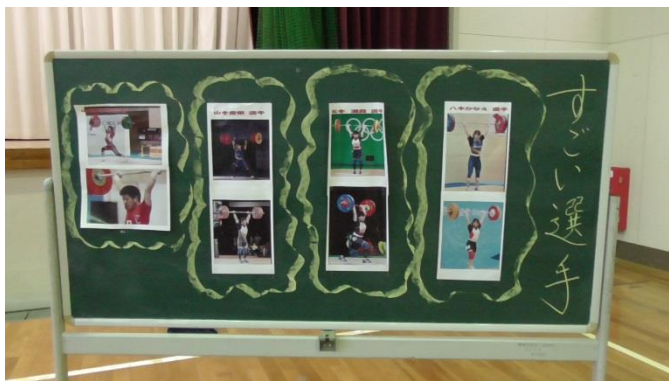
## 6 授業の様子



【 質疑応答 】



【 用いた用具 】



【 掲示物 】



【 選手にサインをしてもらう児童 】



【 記念撮影 】



【 選手を見送る児童 】